

遊子方言

分六寸三	コ	ヨ	紙	表
分九寸四	テ	タ		
分二寸三	コ	ヨ	梓	文本
分五寸四	テ	タ		

遊子方言叙

花之美多則多矣不若花街花
之美且情桃李雖然美不言不
語牡丹海棠雖然艷不笑不歌
此花也不唯能言語笑歌其色
一過目則奪精蕩魂其香一觸
鼻則飛心斷腸加旃霜露不凋
風雨不摧取之無禁用之不盡
春秋晝夜莫時不芳菲奚爲與
艸木花同榮枯哉艸木花猶且

賞之况於此花乎北州之遊鴨

呼樂夫因以序

田舎老人多田諭謹書



遊子方言叙

花ノ美多キコトハ則チ多シ。花梅花ノ美ニシテ且情アルニ若カ
ズ。桃李然ク美ナリト雖。言ハズ語ラズ。牡丹海棠然ク艶ナリ
ト雖。笑ハズ歌ハズ。此花ヤ唯能ク言語笑歌スルノミニアラズ。
其色一タビ目ヲ過グレバ則チ精ヲ奪ヒ魂ヲ蕩カス。其香一タビ
鼻ニ觸ルレバ則チ心ヲ飛シ腸ヲ斷ズ。加旃霜露ニモ凋レズ。
風雨ニモ摧ケズ。之ヲ取レドモ禁ズルコト無ク。之ヲ用フレド
モ盡キズ。春秋晝夜時トシテ芳菲セズト云フコトナシ。奚爲艸
木ノ花ト榮枯ヲ同ジウセンヤ。艸木ノ花スラ猶且之ヲ賞ス。況
ヤ此花ニ於テヤ。北州ノ遊ビ鴨呼樂シヒカナ。因テ以テ序ス

田舎老人多田ノ謹書

畢

遊方子言

の兩めん。琥珀じまの袴。なかぬき草履をはき。供にかみきの風呂敷つゝみと生花をもたせ扇子かざして来る。

通し者 これゝ色男。むすこいやこれは

どふでござります。此間先生と御噂申

ました。通し者先生はさへぬはあゝお

まへどこへ行なさる。むすこ私は本所邊

へまいります。通し者行ねばならぬ事か。

何しに行ッしやる。むすこ伯父きの。病

氣でおりました。見舞にさんじます。

通し者 伯父病氣ならば、ぐつとながした

いわい。むすこなせでござります。通し者

あんまり。つがもない。よい天氣じや

によつて。正燈寺とくらわせよふと思

ふ。むすこなるほど。私も正燈寺めは参

りたう御ざります。行て来て本所へ

参られませうか。通し者行れます。／＼

そして。本所は大流に。ながしてもよ

しさ。むすこ何にもせよ参りましょ。

通し者 そんならぐつと。供を歸しがよか

ろを。あれが行たとて。紅葉がおもしらくも。何ともないわさ。それよりは。内へ歸つてゐた方がらくだ。角平な。すとなだ通り者か。これ色男袴を

／＼。御角平それとも御用がござらば。

参りましょふか。むすこいや行すともゑ

い歸つて。言をうには。あなたに道で

御目にかゝつて御同道申正燈寺へまい

るによつて角平をば歸します。かなら

ず御あんじ被成ますな。供かへる。通し者

あゝゑい。これで大きにゑい。船中にて

だん／＼。つもの物がたりがある。お

しい色男が。埋木となるによつて。だ

ん／＼おれが。傳授で。善二坊のやう

な色男を。揚卷の助六がやうに。つく

り直さにや。ならぬこゝは。みんなが

乗伊豆屋といふ舟宿だ。毎日おれも乗

所だ。こつから。のろを。かみさん猪

牙舟。ちよつさり。ぐむづくり。はや

く出しとしたいわい。舟宿の女房はい御

出なされませ。猪牙舟はござります。が。一艘なんとやら。おつしやるふねが。ござりませぬ。通し者いや猪牙舟ばかりでよしき。女房どつち迄で。ござりま

す。通し者どことはとどだ。堀さ／＼。

女房 かしへいづる。船頭は今かへりて。休

これ五郎どん大ぎながら。一艘こい

で下されよこれきとどぞ。さしたか。

五郎どふも仕やせんが。はらが。へり

やした。腹も。へるはづで。ござりや

す。松さきへ上下を二どこゐで。堀

も二はい。あげて。來やんした。女房

そんなら。茶づけ一ばい。かきこんで

はやく行てください。いそがつしやる。

通し者二人 舟宿のみせよりふ舟はできた

むすこ かと。くわへ煙管にていづる。女房

氣のどくそ。ちと。おまふ被成て。くださ

れませ船頭が。みんな出はらいます。

よう／＼只今かへりました船頭が参り

ますが。大ぶ。はらが。へつたと申て

んの事ッて御座ります。通り者これに段々。こうしやくの。ある事た。吉原は男よりよりも。肝胆が、かんじんだといふ事がある。此河岸に八十ばかりになる。なで付があるが。これが此君と大きに色事だ。それゆへに此君が客は。みんな。皆無ぶつばらッて。きれた程の。肝胆した。それを。おれがむかふへ廻して。たび／＼色事をしたがおれも。悪くすると。叶ない事がある。それに付ても。あつたら色男が。形や作りが。どふもさへぬ。吉原へはいる形じやない。とかく吉原は黒仕立がよい。髪がとんだやばだ。どふぞもう五ふほど。根をあげて。刷毛先を。すつと。ひつききとしたい。額をもう多くの事ちやないが。もう五六ふ。抜きあげて。どふぞ形や何かを。意氣に。さつしやい。そして。會へちつと。出るやうに。したい。むすこあい新交が會の時にちよと。まい

りやした。通り者新が會の時にや。お行なんだ。すべて此ころは。通り者が會をながす。それで。おれがせんども。藏前の弁魚に。川崎屋の雷同が所で。みんなが。ゐたによつて弁魚に。そふ。ゆつた。是からは會をみんなが。流ないはづだ。何をいふも。みんなが。錢のないしゐだ。錢がないといへば。おれが丸角ゐあつらへて。おゐた。花がん袋がある。とんだ。ゐきな。きれた。小はせ斗貳分ほどに。當ッてゐる。されは。阿蘭陀のむしろをり。貴様。見ると。ふるへ付はどな。きれた。おれが錢のある時に。あつらへて置た。丸角の亭主が。おれと心やすいによつて。いつでも亭主にあつて。あつらへる亭主も。じよさいはなけれど。忙しゐによつて。とかく丸角は。ながい。されども十日ほどの内に拵へて。やろうとゆつた。其内に皆無錢がなくなつた

によつて。三十日ほどに成が。今に取にいかん。貴さまいつそ。買ないか。出来てゐようから。むすこそりやどふぞ。私が買とう御座ります。どふぞ。おまへつれ立てゐつて。おくん被成ますまいか。通り者おゝつれ立て。い。貴様。たばこ吞えないの。むすこあいさやうで御座ります。どふもたばこを。吞んはわるいもので御座ります。それで此間すいぶん煙草。のみならをうと存ます。たばこ入も。拵へとう御座りますから。どふぞ。つれ立ッて御出被成て下されませ。通り者たばこ入は。堀安で見え置た。とんだいやよい更紗がある。それを。拵へ。さつしやれ。堀安めもおれと一しよに行と。すとなん懸値は。いゝゑない。煙管は。どふしても住吉屋がゑいによ。とんだ能かたがある。むすこせんと折太夫に。あいやした。それとんだ大そうな煙管を見やした。それ

に小田原町とやら。新場しんばの人とやら。来てゐやした夫おつこも。とんだ大そうなで御座りやした。通り者折太夫といふはなんだ。むすこ義太夫をかたる。通り者うなるほど。いやおれがものすきは。又ちがう。なんでも住吉屋をよんで。まあ是これからは。なんでもおらが内へ來さつしやい。そつちへ手紙がやりたい事があつても。どふもやりにくい。若わかゐ者を。そゝなかつやうで。名なにしおふ。おれが事ことだから。どふもしにくゐ。貴様表ひやうよく徳があるか。むすこあいどふぞ。おまへの字を取てお付被成てくだされませ。通り者そんなら。おれが番町ばんぢょうの番の字を取て番景とつけよ。後にや。おれがやうに。方ざうくから番景様ばんけいさまッといふやうになる。夫につゐて。はなしがある。此中も中の町の松屋の見せで。おれが。どんで。きれゐな。形で勿論もちろん。ふと煙管で。たばこを吞くはでゐる

と。そのそばに淨留理じやうりうりをかたる東洲とうしゅうが来て。はなしてゐると。さる内の奥座敷の女郎おんなが。東洲にあだつゐたおれに。あだつきたい。けれど。おれには。おそれて居て。おれは。此くらゐな。うは氣きな。ものだ。といふ事を。しらせたがつて。何が色いろ／＼な事をして。其うへで東洲に。ぬしの名は。なんと。ゆつと。そつときゐて。すると東洲がぬしの名をおしりなんせんか。番町さんと。申やすと。いふと。番町さん。いゝたそふな顔かほで。つんとして。これに御出ごでなんせへといふて。立てゐつた。客が來たそふで。そこで。今夜この内へいつて。新造しんぞうかいとして。夜ふけ人しづまつて。其女郎が所へ。しのびこみの。口説くづかすとも。じきに。そふいふ調子てうしだによつて。直に出來る。出來るといふと。しよての。新造に引かへて。三ッぶとんのうへ。ひそかに

茶ちやづつたり何かして。腹はら一ッばいに女郎おんなぶちころしのしのめ。さつと明わたる時分ときぶんまで。ゐて歸る。なんとときつ色男じきおの筋じやないか。おらが吉原はみんなそふした事だ。これは埒らちのあかない舟だぞ。いや／＼よう／＼着きそふな。船頭どこへおあがりなさります。通り者ほんにそふだ。け。一川屋には勿論もちろんかりがあり。吉野やの。きやつめは。うぬばれで。いま／＼し。どこにしようなてそれ／＼此ごろ逢た。山本は。まだおれを大臣だいじんとおもつてゐる舟宿がある。船頭どこへ。つけます。申。通り者そんなら山本の。さん橋へつけろ。船頭山本屋／＼。山本はあとなたかお出なすつたそふな。と。さんばし。これはおめづらしい。お出で御座ります。おあがり被成ませ。あこつちらへ付けばよいに。むすこいや／＼こちらでもよし／＼。と。つとあがる。

山本や 一ふくまつおあがり被成ませ。○
通し者。むすこ二人 山本や女房 よふお出被成
ました。山本や あなたは番町さんとい

ふおかただ。せんと朝。水道橋まで。
めしたお客だ。通し者 これからは心
やすく。来やんしよ。かみさん。刷毛

先が。そっけはせぬか見て下んせ。
山本や女房 いえなんとも御座りません。

通し者 手のごひを。ちよと。あつい。湯
で。しばつて。ください。山本や女房 は

い。通し者 手のごい。おれがやろ。浅黄
の手のごいを出し。ゆてぬれたるを取。し

ぼりて顔をふく。髪きはを大事にふく。
と。これで心持がよくなる。ふか。し

やらんか。どふもやばな形だぞ。むすこ
急ぎまじしよ。山本や 同女房 申明あさ

おより被成ませ。通し者 さあくまあ士
手へ来た。これくこちらだよ。ここの。

うちにも功者。不功者がある。こち

らを通ると。かくべつ。ちかい。これは
土手が太。寂しいわい。こはなの。

ささへ。つばきを。つけ。さつしやい
く。むすこなせへ。通し者 いやなせで

も。つけ。さつしやい。今におもひしる
事がある。それくもふ来たぞ。むすこ

ほんにおかしな。句で御座ります。通し者
こりや死びとをや。句だ。じやが。

土手で。かげば。死びとの句も。ある。
ものじやないか。今夜は大ぶ土手が。

永やうだ。と。いふて。しやんと小づまを。かぶ
と。上る。功者らしき声にて

かた。まだ。意見を。残した事がある。う
たを。ならうげなが。同じ事なら。う

たは。よさつしやい。今やばな。侍が
うたをうたう。河東ぶしを。ならはし

やい。おらが内には雅十はじめ。段次
も。筆次郎も。来るもんだから。誰に。

ならをうすきだ。それに河東が。此
ごろは聲が。かた。おらが内へ来てね

てゐる。それに筆次郎は弁四郎と改名
した。これも會の。たくみが。あるか

ら毎日来る。いや通し者。なると此會
ばかりも。うるさいものだ。摺物は。か

りも。大ぶ。たまつてゐるぞ。そうこ
う。いふうちに。是は。衣紋坂。やつば

り。こは古風に。こつで。すいぶん。
衣紋を。つくろうが。多い。時に。こ。か

ら。しづかに。してい。かふ。どふも人
見ると。みんなが。来て。あんまり。そ

う。く。しくなる。今夜は。しつぽりと。
手まへと。おれと。たつた。二人で。

あそぶ事に。し。よ。はいりて。大門を。こ
う。寂しくては。どふも。ならぬわい。

茶屋は。どこに。しよふ。あんまり。
しつた所が。澤山だから。どこへ。い

かふも。目うつりが。する。それにおれ
は茶屋を。定て。行。きらいだ。そこは

何屋だ。のうれんを。見ささしやい。
むすこ 小田原屋といたして御座りま

す。**通り者** あゝ又が所か。あゝあゝつは。

おれがいつたら嬉しがろ。さあ／＼はいりましよ／＼。と。づつと。はいれば。茶屋は女房ひとり座敷にゐる。

かみ様んどふで。ございす。**茶や女房** あい

お出なんし。お上りなんし。**通り者** 上り

ましよ／＼。と。づつと。あがり。見せのまん中へ大あぐらにて。すはる。

大ぶ今夜は。しづかだの。**女房** いまだ

二階にお客が御座ります。**通り者** いっ

でも。にぎやかで。悪い事だの。久しぶり

で。この内へは来たぞ。女房は何から顔にて。

女房 おしつけ。ながら。おま

へ様は。お見すれ申しんして御座

りますか。あなたは。となた様で御座り

ましたね。**通り者** これはどふだ。これはく

いかに久敷こないとて。見すれた顔

は。ねい。しかしそふだあろ。久し

ぶりだから。御亭主には。折ふし途中

であうが。成ほど内へは久しぶりだ。

そして亭主はどつちへで御座るす。**女房**

今日は江戸へ参りました。**通り者** あ今

こゝを出て。いつた人は。だれた。**女房**

あれは筆次郎様で御座ります。**通り者**

あゝ筆か。なぜおれを見て。見ない。顔

して。いくしらん。成ほど／＼ゆふべ。

おらが所へ来るはずで。こないによつ

て。それで見ない顔したそふな。**女房**

あゝゆふべ。あなたへ参るはずで御座り

ましたか。**通り者** 此ころは河東が来て

ゐるに。よつて。咄に。こうと。ゆッ

た。それに。筆がこないによつて。ゆ

ふべは龍干が来て。誹諧で。夜をあか

した。○此間。壺。すゝりぶた。酒出で。女房がさし隠にて成物出る。今日も

河東が来て。ねてゐつたから。吉原へ

行。あゆばないかと。ゆつたれば。無

精な奴。吉原よりはどふぞ。寝てゐた

いと。ゆつて。いったけ。**女房** 河東様

は。ゆふべから。こつちへ。来て。御

座ります。**通り者** 河東が。きのどくそふな

顔にて。はて。それはいやな事。魂魄じや

ないか。○女房はあいそをつかして。勝手。〇所盛

には男と**茶や男** おかみさま。あれは何か。

おかしな者で。御座りますぞへ。大が

いに挨拶をして。お歸し被成ませぬ

か。**女房** おゝおれも。そふおもふよ。

何にしろ。だんなが。歸ら。しやつた

ら。ゑゐやうに。さつ。しやろ。まあそれ

までは。かまはずに。おかつ。しやい。

もし又。つとめの。請合引なら。かな

らずさつしやるな。おらは。二階の客

人の方へ行から。平さんと川さんが。御

座つたら。あゝふたりをば。中のまへ。

置いて。おれへはやく。しらさつしやゐ。

と。いふて二階。**むすこ** この女房は。あま

り愛相が。よくないじや。ござりませぬ

か。**通り者** されば其事つた。せんたい。

つきのわるい内だ。何か知つても。し

らないよふな。顔してゐる。こゝへ今

よい女郎が来ればよいに。こふしてゐる内にしやれてやろうもの。と見へるふたりして。煙草。ば

客平くも 男が大きい。人柄。よ。合ひんて黒羽二重のあたらしき小袖。黒縮緬五所紋白く。風縮緬のあぬき。きれぬに。大きな声にて

御亭主はも歸られたか。○臺所より若い者かけ出て。かの通り者むすこにも。かまはず。とんで出る。ひやらしに。通り者の足に。わかい者の足がさける。

通り者ぞんざいな。野郎めだ。○わかい者被成ませともいわず。

わかい者 御出あそばし

ましました。平。お二階へとをろうか。

わかい者 ちとおまち被成ませ。と。通り者むか。おまへさまがたは。中の間へ御出被成て被下ませ。通り者 どこでも吉野木。これ色男。こつちへ。來のめ田

樂。をいふ。わかい者 至も出る。客人平大分おをそう御座りました。平御亭主

はまだか。御内しやうは。わかい者 只今二階におります。おまち申ておりました。はやく。さやう申ましょ。平大分

いそがしそふたな。通り者 これ色男み

せの客を見さつしやい。あいらがふられすば。ふらるゝ者は。あるまいじやないか。あゝいふものを見て。おいらを。見たら。女郎の心でも。はれるはずだ。と。高慢をいふ。女房 二階よりおすこに見へをいふ。

女房 大おおをそふ御座りました。平そふで。あつたであろ。今日同役の所で。少し祝儀事で。吞かけ山と。して。おたらば。亭主の見へられて。あつた。

女房 さやうで御座りましよ。今日の。きふな御用のおをそふで御座りましたによつて。外の者では。間ちがうと申て。自身に持て參りました。それでも。お目にかかりまして。よふ御座りました。川さまは御出被成ませぬか。平これ

れも大かた見へやうが。御亭主ももう歸られ。そふなものじや。尤これは虎の門の方へよるといふ事であつた。女房 はいさやうで御座ります。いつで

も虎の門へよりますと。永ふ御座ります。せんと。よりまして。虎の門の御客さまは。此方へお出なんしたのに。歸りませんで。直に品川に參りました。其朝ゆるりと歸りました。しかも。其ばんは。いそがしいばんで御座りましたのに。歸りませんから。歸りますと。大きに。ふり付て。やりんした。平んまいなく。そふした。實な女郎に。あいたい。ものじや。女房 山さんがあらはど實なうへに其やうに。なんに被成ます。平されば其事じや。あゝつも。氣のしれぬやつじや。すんど實な。やうでもあり。又何やら。おかしなもののじや。いや此やうな事。いわすといばい吞ましょ。女房 一ッおあんなんせ。はい。平これはきつい小盃な。今日一日。よつては。ゐるけれど此やうな小盃では。少し。くす。ぐつたい。やうじや。例の大物を。女房 さや

ういたしましよふか。といふて。女房は。勝手へ。盃。取に立す。いものをい付る。客人。平。大分降た。風情にて。扇子はちくならしむる。
通り者

むすこにさやきて。秋。これ。かみさん
の内より。何かとりて。

ちよッぴら。あいたい。女房
はい。なんで御座ります。取込まして。
ろくに。おかまいも申ませぬ。通り者

かまはずとも吉野葛。これはせ左衛門
なれど。久しぶりで来た。しるしとか。
なんとか。いふやうなもの。そつち

へ。しまつて。翁草。女房はい。これは。
と。ばかりにて。通り者

ある。松葉屋の染之介を。きくに。や
つて下さい。女房のみこまぬはい。とい
しあん

はい。染之介さんは。おわるう
御座ります。さつき。むかふの内に
出なんした。通り者

な。丁子屋にしようか。女房角町に。
しんみせが御座りますが。お出なんし

て。ごろうじませんか。通り者
角町は

さへまい。むすこに。かの。色事の所
へ。いこふか。あゝしんぞふ買では。氣
がつまるぞ。女房まあどこぞ御相談被

成て。御ろうじませ。通り者
しろ。挑灯付さしてくんなさい。女房

はいとれぞ。おとしやれ。といふうち。みせの客。人
今もつて参ります。といふて大盃。平。さあ

これじや。と。ぐつと。通り者
よりなんし。通り者
ふらば。ぶんながしの。久しぶりで。

わつどうも。知れやせん。諸事は。
今夜の女郎の腹にある事。と。い。い。な。が。ら。むす

ふな髪じや。所謂。本多ふうじやの。
女房あいささやうで。御座ります。何か

しれぬ事はつかり。おつしゐんすか
ら。あいさつが。しにくう。御ざりん

す。平いや時にこよいは。氣をかへて。
見る。つもりじやぞへ。女房なせで御

座ります。平いと新町邊に。見そめ
たのがある。これへ今夜はゐて。ちと。

たまには。もたせるも。面白からうで
は。ないか。女房なんさ。それは。お

よしなんし。私共が大てい。なんざ。
いたす事じや。御座りません。せんと

も。ちよッと。江戸町まで。お付合で。
お出なんしたのさへ。大てい。やかまし

かつた。事では御座りません。あれ
そふいう内。新ぞう衆が。おむかいに。

お出なんした。それで御座ります。平
おれは。かくれるぞ。新ぞう申くわ

つちを見て。なぜにげなんすへ。平いや
にげは。いたさん。公のおむかいに。

出たのじや。さあ。あがり給へ。新ぞう
あ。も。せはしのう。おざんすは。
といふて。こしを襟に半分。おかさんに。お
かけて踏そふにしてゐて。

わらんで。おッしやりんす。晝ひるほどは。ゆるりと。お目に。かゝりんして。おうれしう。おさんす。平様へいさま。お出なんしたそふで。おさんすのに。なせ早く。およこし申まうせんせん。おうらみで。おさんす。と口上くちがしい。なせ人をよこしなせんへ。女房によう。あいさどふで。さはつてお出なん事を。ぞんじておりんすから。まあゆるりと。そふ申て。あざんしよと。おもふて。おりんした。それにつゐて。おはなしが。御座りんす。さツきね。平さんのおッしやりんすに。よと。客人の顔を見ていふとする。平は最前さいぜんより。酒よほど。まはり大げんきとなり。うたい声こゑで。平さやうな事は船中ふねちゆうにては。申さぬ事にては。新ぞうしんぞう。ても大きな声こゑだぞよ。平声へいこゑが大きいかな。へうた大きなものを。持ながら。新ぞ。買かとははは。これは。さし合じやの。とやかく。いわふよりは。はやく。ゆかふ

では。ないか。今宵こんやは。名代なだいじやに。よつて。はやく行いたい。新ぞうしんぞう。ぬしや大ぶ氣おほきがなをり。なんしたね。平へいや名代なだいには。ふかい。意味かみのある事じや。はやう。いこう。女房によう。お吸物すいぶつをお吸すなんして。お出なんし御膳ごぜんのしたくも。いたして。おきんした。平へいいや。中なかつ飯所めしどではない。はやく参まゐりたい。と。いふて。草履ぞうりを片かたんばにはき。かけ出しそうにする。拍子かたに大きな鼻紙袋はなをかみ。おちかゝり。背せの紋所もんじよも肩かたさきへ。まはり。袂たもとのとけたを結びながら。にでかけ出る。新ぞう袖そでを引とめ。新ぞうしんぞう。いつでも。いゝ出さしやると。せわしない。まあまちなし。女房によう。はやく。おちやうちんを。付つろ。申まうおさうりが。ちがいは。いたしませんか。平へい草履ぞうりどころではない。はやく行いたい。ととかく。新ぞうしんぞう。まちなし。ひつそ。わかい者もの。此挑灯ちてんは。わるい。せまで持つて来た挑灯ちてんを。又またお女房によう。顔かほにてはやく。へ持つてゆきそふにする。

行ッしやいな

夜のけしき

いつのまに。峯ねの松風まつかぜかよひ来て。いづれの緒いとよりしらべ初はじけんすががきの。軒のきをならべてひくふねよ。泊とまりさだめぬ河竹かはたけの。流ながれても身みはすみた川がは。むかふの人ひと。尾張屋おちやに人ひと。こんな。二帖にじょうの紙かみを持もつ。来きさッしやゐな。いッけするい。はやく。来きさッしやゐな。縁えりどう。いふは友ともよぶ愛あいらしき禿かぶの聲こゑ。わゐら狂くるふて斗はわす。と。座敷ざしきへ。うせあがらないか。すかない。俄鬼がきともだぞよ引ひは。やり手てなるらん。猶なほもすがゞきの音おとにうかれて。五ツの町まちをめぐり。いづれ。あやめと見みれば。昔むかしを友ともとする顔かほに歌書かしょを讀よむ。後の月のつき見みに逢あはれめ見みせめと声こゑ高くよむ。箒はらきを立てまじなへば。疊算たたみざんに待まち佐さび。來きたれるぬを巻まかへせば。送おくるぬを

宵の程

封じ。こなたより視ばかなたより覗く。白眼あれば笑うあり。物やおもふと見れば。さゝやきて悦ぶ。縁の柳腰。紅の下緒いろ／＼行こふ人そぞろなる中に。けしからぬ声の按摩はり。鮎實が鯉のすう鮪のすうと呼も。しやれとやいはん。義太夫おしは頬を押へたり。江戸ふしは行儀に行。二人三人友とち左右へ別れ。さぞや囁く。さぞ今ごろはと諷ひ。巻舌にて。こつちらへ廻りやれ／＼と。睦敷は。其邊の人かと思ゆ。温飽。蕎麥切。汁子餅。雑煮のあんばい。よき。キの字屋の名も高く。彼鵲の橋ならす。白きを見する名物は。山屋の軒の水にすむ。ゆかりの月やすがき。まだひく四ツの拍子木も。それかあらぬか駒下駄の音に色めく。ありさまは實に夜の錦な

大勢つきそい。挑灯三張にて。はししごを上。新ぞう客の後に付。新ぞうごをば。しづかに。おあがりなんせ。室をばど。心得ました。新ぞうこはばからしうおざんす。人の座敷でおざんす。こつちらへ。お出なんし。客又せまい所へ入るのか。新ぞうなせまい所じやおざんせん。せんどおまへの酔なんした所でおざんす。客あのおくのか。新ぞうあのおくのでおざんす。はやくお出なんし。と。廊下を行と。方々の座敷より名をよび。華さん／＼といふ。やうれしそふ。舟道茶屋これだまづおめでたふ御座ります。御座敷も定りました。客全体こよひは。おれ。ひとりじやによつて。此座敷がよいではないか。舟茶さやうで御座ります。此うち。てうし。硯ふた。吸もや。女郎やの若者旦那。くわしやたばこ盆いづる。一ッ召上られませ。客さあ座がバツ

て面白くないではないか。なんと此ふたでまはそふでは。ないか。みなくよふ御座りましよう。客とかく。おればかりが。いつも吞かぶた。おみよや。お秀を。呼にやらんか。茶屋只今参るはづて御ざります。客今夜は。後には大ぶ賑に成ろうぞ。さつき道で呂州に逢た。これも来よふといふた。それで今夜は藤兵衛を呼ん。こつがおれが粹じや。呂州が来てゐるに藤兵衛に。うたわせるは。互におもしろくない。よつて呼ん。茶屋成ほど万事に。あのやうに心がお付なさる。南蛮あい左様さ。茶屋私にちよつと。行て。さんじましよ。客まそんなら一盃のんで。行やれ。今の盃を歸しもせいで。茶屋また私はふせります。客はてねたがよい。しかし。其やうな事で。酒はのめる物ではない。さあ／＼わしも吞ぞ。新ぞうもしにもふ。それ切で。かならず吞なんす

なへ。客これはつれない。事じや。

新ぞう おゐらんで。いゝなんすには。かならず上申あがなといふなんしたに。よつて。留申どましにや成なせん。客はてこまつた。ものじや。と。いふ内に。五六人ざは口へ。新ぞう 御亭さん御出ごでなんし。兄さん。どふなんした。客これは美うつくしいぞ。これはいかい事。客ひとりに。むこ八人じや。賑にぎやかで。どふもいへぬ面白おもしろう成た。さあ君たちと呑給へ。あれへさし上やうやら。新ぞう わッちに。差さなんせ。と。引ひうけ。客。い。やの。みなんすの。と。いふて。客。御出あそばしましたか。すつきと御足が御遠く成なんしたの。客。いやこれはかゝさま。どふじや。一ツ呑給へ。客。茶屋をよひいふ。茶屋。申。御しうぎが。御ざりましたぞへ。客。ではは。お有がたふ御座りんす。私はまあ行ッて参りましよ。

新ぞう 今のお盃。あざんしよ。○此所へ。菓子。重箱のふたをとれば。あた。客。さあ。これほど。御肴が出た。おさへます。い。

い。おみよ。お秀。いや。呂州ろしゅう文ぶんさ。御出へ。なに今の盃は。こふおまはし。かぶ。兄さん。其三みせん箱。あちらへ上てくんなんし。あれ御亭さん。くるひなんすなあれよびんす。おう。みな。旦那は大ぶお醉なさつた。休ませ申たら。よかろう。

更さらの体てい

女郎やうりやうさし合名だ。平。あ。今夜も又。此やうい廻り部や。なせまい所へ。とう。入られた。い。その事ねようぞ。あ。酔もさめる。あ。心持に成た。と。夜着よぎ半はんぶん。程着て。ね。こ。て。ぼ。と。ひ。客目のさめた顔。平。う。う。これ。三味線をひかすと。こ。へは入てね給へ。新ぞう。い。こ。うして置

て。おくんなんし。又しかられんす。

平。其やうな。大きな声をするからわるい。こそ。と。ちよつと。と。いふて手を。新ぞう。おがみんすにへ引。と。むきに成て。手をはなし。しばらく腹のたつ。おもいれ有。すつと立て。帯をメなをし。かしこまり。思案をして居。平。これさっきの。どこへか持てゐて。しまつた花が。袋と。羽織はおりを持て来てくれろ。新ぞう。どうなんすへ。平。歸る。新ぞう。今ごろ。つゐど歸りなんせん。に。なせ歸りなんす。平。いやもふ七ッ過でもあろ。新ぞう。いやまだそらほどでは。おざんせん。今におゐらんで。お出なんす。ぬしの。い。なんすには。必かならずちよつとでも。ぬしを。い。ごかせ申。など。い。なんしたから。い。ごかせ申。事は。成ないせん。じつとして。あ。なんし。平。今に來るか。新ぞう。たつた今お出なんす。氣を短みじかくせすと。もちゐと。のなんし。平。てもあまり。おもしろ。

言方子遊

て。なりせん。通り者 それは。そふ

と奥座敷の女郎衆に。ことづけをして

くれたか。新ぞう あいそふ。申した。

なれば。ぬしや。そんな。おかたは。

しらんと。いゝなした。通り者 はてに

くゝするの。それでも廊下座敷の女郎

衆は。よもや。おれを。わすれはせま

い。新ぞう あいこれも。さつきそら申

した。なれば。おまへの小ように。い

きなんすとき。あとから。見てゐなん

して。そふいゝなした。どうも。お

もひ出されないと。いゝなした。

通り者 さすれば爺に成ったか。何事も

さへぬ。只と歸りましよ。

新ぞう はて。ちるとお出なんし。お

まへが歸りなんすと。わッちや死にん

す。と。いゝながら むすこ 部屋持 あとへ残

してゐる。通り者 色男きたないぞへ

いゝ。新ぞう 人の事に。かまはずと。

早く階下を下りなんし。

しのめどころ

隣 平 あゝ、やかましい。胃からの口

きゝが。やう／＼出て行そふな。さッ

きからも。くゞりのあく音で太ふのぼ

せた。名代の新ぞう 入かはり。調染の女郎お

しつけ奥座敷に替んす。此やかまし

いが。よくなりんす。夫までが太体の

くろうじや。おさんせん。平 はて。胃

から。あらほど。おれがゆつて聞せる

通り。其様に。氣が。よはいつて成もの

か。新ぞうを出すほうはどふ成とも。

おれがしてやろう。今の座敷のほうの

事ばかりじや。それもおれが様子した

いで。どうともしてやろ。女郎 さりと

は。おうれしうおさんす。といふて。いろ

有。き事 おまへのやうな客人が。もう一人

あると。わたしや太体。ゑゐこッちや。

おさんせん。平 はて氣の多やつ。めり

てあぢな。女郎 ほんに。わッちや。此ころ

は夜もひるも。ねられせんが。今胃は

胃の客人が歸ッてから。おまへの所へ

來んしてから。心がとけて。よくねん

した。それでも。胃におまへの機嫌の

わるふおさんした時には。いつそ。こ

わう。おさんした。今度から。どふぞ

腹を立て。くんなんすなへ。平 もう腹

は立ん。おゆるし。時に。もう

おれは歸らふ。女郎。まあもちつと。

ゐなんし。平 いや。夜は明よう。そこ

を。ちよつと明て見てくれな。○女郎

を。夜は明はなれ。南無三寶さきから鳥

がないたろうが。ちつとも。氣がつか

なんだ。たかこ 若い者。はやくは

きものを。下にやつてくれ。扱も

あ。茶屋めが七ッに。むかひをよこせ

と。いふて置たものを今にむかいを。

よこさいで。女郎やの若る者 さきほど。

おむかひに参りました。平扱／＼。これ

は。と。帶るうちに。又もか 女郎かならず

後に。な昼まつたゐいんすにへ。平いや

どふもかへりが。おそいから。合點が

いかん。さりながらどふぞこよふ。女郎

そんなら。わっちや中の町までは参り

んすまい。平そこ所ではない。あゝおそ

く成った／＼。女郎かならずお出なん

せへ。またからす心しらすや明の鐘